

# 飲水思源

自動車販売のリーダー

23

## 菊池武三郎伝

危機的状況の中、病氣 進んだ。

療養中だった豊田喜一郎も必死の努力を重ねた。しかし解決までの約2か月間、生産はストツプし、4月になると会社側は、人員整理は避けることの覚書を破棄せざるを得ない事態であることを組合側に伝えた。これに対して組合側は同7日、ストに突入。争議中、事態の責任を感じた豊田は社長を退くことを決意した。これは組合側にも大きなショックだった。争議は急速に終結の方向に

話は一スト直後に戻る。トヨタのスト突入のニュースに、菊池武三郎も動いていた。名古屋に山口を訪ね、善後策を協議。5月にトヨタ自動車販売店協会(旧販売組合)の

## スト突入

緊急役員会を招集した。販売店は金融逼迫(ひつぱく)の影響で車が売れなくなる一方、ストで配車もなくなるといふ二重苦に立たされていた。をかねて誠に申し訳ありません。今度のことは私一人の責任です」と、涙ながらに販売店に謝罪した。販売店の代表者たちは何も言えなくなった。武三郎は、問題はメーカーの再建である▽場合でも、翌日の総会では豊田の留任を要求する決議がされ、退陣反対決議書が提出された。この時、武三郎が持っていた後任社長の腹案は、浅原源七だったと考えられる。

# 生産減で配車不足に

緊急役員会ではスト解決へ決議書を採択し、豊田に提出することを決めた。また争議解決までは各役員が交替で名古屋に滞在。会社側や組合側と会談する必要があることも確認した。

さらには争議中の5月度役員会では、メーカー側の重役を呼んで早期解決を申し入れた。豊田は自ら壇上上がり「迷惑

### 決議

トヨタ自動車販売店協会は、トヨタ本社および労組に対し、今回の争議を即刻解決されんことを要求す。右決議す。

昭和二十五年五月二日

トヨタ自動車販売店協会

理事長 菊池 武三郎

トヨタ自動車工業株式会社

取締役社長 豊田 喜一郎 殿

採択されたスト解決を要求する決議書

武三郎は戦後トヨタのリーダーとなり、全国販売店のリーダーとなったが、自動車人としてはメーカーの枠を超えて国産車の運命を考えていた。日本の自動車のために最良の人をというのが、武三郎の考えだったに違いない。(文中敬称略)  
11つづく、1月5日は休みます